



平成29年1月 静岡県水産技術研究所伊豆分場ニュース

## 網代でアワビ稚貝放流礁の実証事業が始まる



四角の板が放流用の平板礁 そこに素潜りで放流した。

解説：アワビ種苗放流：卵を孵化させ1年程度飼育した後に殻長2~3cmほどの稚貝を放流する。放流後は自然の中で生残・成長し、4~5年後以降に殻長11cmを越えた時点で漁獲されるようになる。

県内のアワビの漁獲量は近年低迷しており、対策が望まれています。その対策の一つとして種苗放流後の生残を高め、放流効果をより高めることが考えられます。県水産資源課は、沿岸漁場実証事業として、放流場造成の試験事業を熱海市網代で始めました。これはアワビ放流稚貝の生残を高めるために平板礁を設置し、その効果を確かめようとするものです。地元漁業者によって10月28日に縦80cm横60cm厚さ10cmのコンクリート板150枚が海底に設置され、12月22日にそこにクロアワビ種苗（殻長15mm）1,000個が放流されました。今後、定期的に行う生残状況の調査で効果を確かめ、既設のアワビ造成漁場の改良や新規の漁場造成に役立てられる予定です。

## いとうナゲット F-1GPで優勝

11月20日、東京都の日比谷公園で開始されたFish-1グランプリ(F-1GP)にて、株式会社東平商会考案の「いとうナゲット」がファストフィッシュ部門で優勝を獲得しました。いとうナゲットは、いとう漁協の商品「サバ男くん」を使った加工品で、「伊豆いとう地魚王国」を軸とした、漁協と商工業者の連携により誕生した商品です。いとうナゲットが伊東の水産物の魅力を全国にPRしてくれることを期待します。



解説：Fish-1グランプリは、「ご当地魚グルメコンテスト」と「国産魚ファストフィッシュ商品コンテスト」からなる魚の祭典。事前審査および一般来場者の投票により優勝が決まる。

## 伊豆半島東岸定置網の漁海況予測

当场では、神奈川県水産技術センターと共同で、平成29年上半年期(1~6月)の伊豆東岸定置網における漁海況を下表のとおり予測しました。マアジは依然低調な漁獲が続くと思われませんが、ブリやマサバについては、資源が増加傾向で推移していることから、好調な漁獲が期待されます。特にマサバについては、卓越年級群である2013年級群が成熟し、伊豆諸島周辺海域に産卵回遊すると見込まれており、相模湾への来遊量増加が期待できます。

伊豆東岸定置網における平成29年上半年期の漁海況

海況	黒潮は期間を通して小規模なB・C型を含むN型基調で推移する。 沿岸水温は「高め」で推移し、黒潮からの暖水波及発生時は「極めて高め」となる。
マアジ	漁獲は前年に引き続き低調に推移。主体は体長17~21cmの1歳魚。
マサバ	漁獲は前年を上回る。主体は体長28~33cmの4歳魚。
ゴマサバ	漁獲は前年並み。主体は30~35cmの3歳魚。
マイワシ	漁獲は前年並み。主体は体長13~15cmの1歳魚。
カタクチワシ	漁獲は前年並み。体長9~11cmの1歳魚主体に、体長12~14cmの2歳魚が混じる。
ブリ	漁獲は前年を上回る。ぶり・わらさ銘柄主体。

**1月の予定** ● 稲取地区でテングサ場保全のために雑藻刈りを行います。 ● 18日にふじのくに奨励賞表彰式が静岡市で行われます。 ● 25日に漁業士認定式が行われます。

連絡先：静岡県水産技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835  
アドレス：[suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp) ホームページ：<http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>  
会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。